



日 時 平成 29 年 8 月 21 日 (月) 13:30~16:30  
テーマ 事例からみる支援②「発達障害のある児童生徒の不登校」  
講 師 兵庫教育大学 教授 井澤 信三 氏  
城陽支援学校地域支援センター「サポート JOYO」 玉村 総枝 氏



盆明けの公開講座は、発達障害のある児童生徒の不登校をテーマに SSC で開催しました。小中高校、特別支援学校、相談支援センターから 65 名が受講しました。

前半は城陽支援学校の玉村先生を講師に迎えて、不登校事例の指導実践を発表していただきました。城陽支援学校にある地域支援センター「サポート JOYO」は、京

都府全域の不登校相談を行っています。玉村先生は、御経験から、本人に寄り添った支援についてや、医療機関につなぐことの重要性、城陽支援学校の通級指導に通って来てくれた時には本人が興味ある活動を取り入れることについても触れていただきました。講演の最後には生徒が教員と作った作品を動画で紹介していただき、不登校だった生徒が生き生きと活動する様子がよく伝わってきました。



後半は兵庫教育大学の井澤先生にお話をいただきました。発達障害と不登校に関するデータによると、発達障害のある児童生徒がみんな不登校になるわけではありませんが、対応が不適切な場合、かなり高い割合で不登校に陥ることが明らかになっています。要因には、学校に来ると嫌なことがあるタイプと、学校に来てよいことがないタイプがあり、登校に向けて本人や保護者の気持ちの理解をし、誰が、何をするのか、具体的プランを立てることが大切だと述べられました。本人や家族の思いのプロセスや支援経過を表に整理

する方法も紹介していただきました。また、実際の発達障害のある児童生徒の不登校事例から、どのように支援を進めて行けばよいのかお話ししていただきました。可能な限り登校できるように「しんどい理由」を理解し、それを軽減・除去しながら、前向きに本人と交渉すること、登校が維持できるように失敗経験を減らし、登校したら楽しみがあるという環境を作ることが大切と述べられました。また人とのつながりを大切に、地域の中の一人として支え合うことの重要性も強調されました。

### <参加者アンケートより感想> (一部抜粋)

- ・事例をたくさん紹介していただき、具体的にイメージすることができた。
- ・本人が学校へ来るハードルが少しでも下がるように人とのつながりや居場所作りに努力してみたい。
- ・子どもへの理解や方向性を持って指導するために、学校体制を整えておく必要があると強く感じた。
- ・本人の気持ちを大切に受け止めながら、本人が納得できる方法を探していきたい。
- ・子どもにとってよき理解者、支援者、信頼できる大人として寄り添っていきたいと思う。